受傷・発症から長期間（最長41年）経過し、自律的に社会生活を送る当事者への今後の支援のあり方について

○川原　薫（福山リハビリテーション病院　作業療法士）
橋本優花里（長崎県立大学地域創造学部/教育開発センター）

1.はじめに

①高次脳機能支援モデル事業で関わった当事者たちの問い合わせがいまだにある
②受傷・発症から長期間経過した当事者たちの現在の状況を知りたいと思った
③自律的に社会生活を送る高次脳機能障害当事者に現状を知るための調査を実施した
④このアンケートの結果をもとに今後の支援のあり方を検討した

2.当事者の現在の状況についての調査

（1）調査方法

①調査対象；受傷・発症から長期経過した自律して社会生活を送る高次脳機能障害者23名

②調査方法；基本的に個別に直接調査用紙を配布し、自筆回答を求めた。

③調査期間；2025年5月～７月

④倫理的配慮；福山リハ病院の倫理委員会の承認を得た。対象者に調査の目的を説明し、同意をいただいた。

調査用紙

アンケート

このアンケートは、受傷から長期間が経過した当事者の方々のニーズを拾い上げ、今後の支援の在り方を検討するために活用されるものです。答えたくない質問にはお答えいただく必要はありませんし、回答を途中で辞めてもご回答をいただいた方に不利益が及ぶことはありません。

なお、ご回答の内容は数値化され、統計的に処理されるため、個人が特定されることはありません。ケースとして公表する場合においても匿名で行い、個人が特定されることがないよう配慮します。以下の質問項目について、当てはまる選択肢に〇をしてください。

1. 今、おいくつですか。
①30 歳代 ②40 歳代 ③50 歳代 ④60 歳以上

2. 発症・受傷からどのくらいたちますか。
①10 年以下 ②11 年～19 年 ③20 年以上

3. 生活の状況について教えてください。
①家族と同居 ②一人暮らし ③ その他 （ ）
↓
上記 3. で「①家族と同居」と答えた方にお尋ねします。どなたとお住まいですか。当てはまるものすべてに〇をしてください。
①親 ②配偶者 ③子ども ④その他（ ）

4. 障害者手帳の取得状況について教えてください。
①取得して更新している
②以前取得していたが、更新していない
③取得していない
↓
上記 4. で①と②と答えた方にお尋ねします。あてはまるものすべてに〇をしてください。
①精神保健福祉手帳（ 1 級 ・ 2 級 ・ 3 級 ）
②身体障害者手帳（ 1 級 ・ 2 級 ・ 3 級 ・ 4 級 ・ 5 級 ）
③その他（ ）

5. 日中の過ごし方について教えてください。
①仕事 ②教育（学校） ③その他（ ）
上記 5. で「①仕事」と答えた方にお尋ねします。当てはまるものに〇をしてください。

①一般雇用／正職員
②雇用／正職員以外（アルバイト、パート、契約職員、日雇等）
③障害者雇用(障害者向け求人に応募した方)／正職員
④障害者雇用(障害者向け求人に応募した方)／正職員以外
（アルバイト、パート、契約職員、日雇等）
⑤自営業（家の仕事の手伝いを含む）
⑥就労支援施設 A 型
⑦就労支援施設 B 型
⑧その他（

6. 高次脳機能障害の症状が残っていると思われるのはどんな症状か教えてください。
当てはまるものすべてに〇をしてください。
①記憶障害 ②注意障害 ③遂行機能障害 ④感情コントロール低下
⑤欲求コントロール低下 ⑥対人関係の取りにくさ ⑦言葉理解や表出の難しさ
⑧その他（ ）

7. 今、生活のしづらさがあったら、それは何か教えてください。
当てはまるものすべてに〇をしてください。
①特になし
②仕事に関しての問題
③経済的問題
④家族的問題
⑤孤立感
⑥その他（ ）

8. 今、あったらよいと思われる支援を教えてください。
当てはまるものすべてに〇をしてください。
①特になし
②仕事に関しての相談窓口
③生活についてのサポート
④当事者の会
⑤支援者とのつながり
⑥その他（ ）

ご協力ありがとうございました。

その他何かありましたら余白に何でも書いてください。

同意書

同意書

医療法人社団生和会　福山リハビリテーション病院　リハビリテーション部　殿

研究テーマ：
受傷から長期経過後の高次脳機能障害者の支援のあり方について

上記の研究実施にあたり、担当者から文書を用いて説明を受け、以下の内容について十分に理解しましたので、この研究に参加することを同意します。

□研究の目的
□研究の方法
□研究への参加が自由である
□個人情報が守られる
□同意を拒否、撤回、または中止した場合でも不利益を受けることはない
□疑問や質問には担当者から適切な回答が得られる
□個人が特定されないかたちで研究結果が公表される

年　　月　　日

本人署名：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

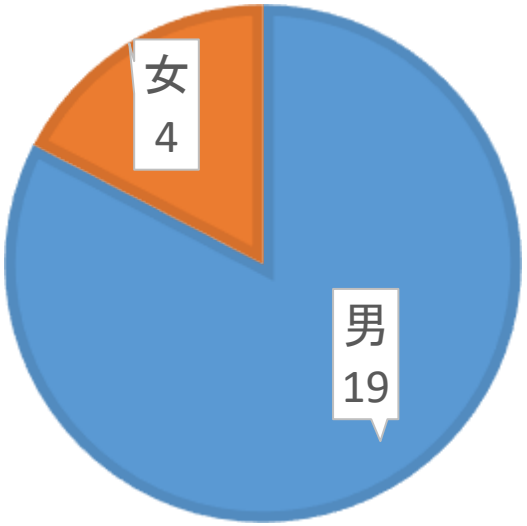
代諾者署名：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿（続柄　　）

説明者所属：医療法人社団生和会
福山リハビリテーション病院リハビリテーション部

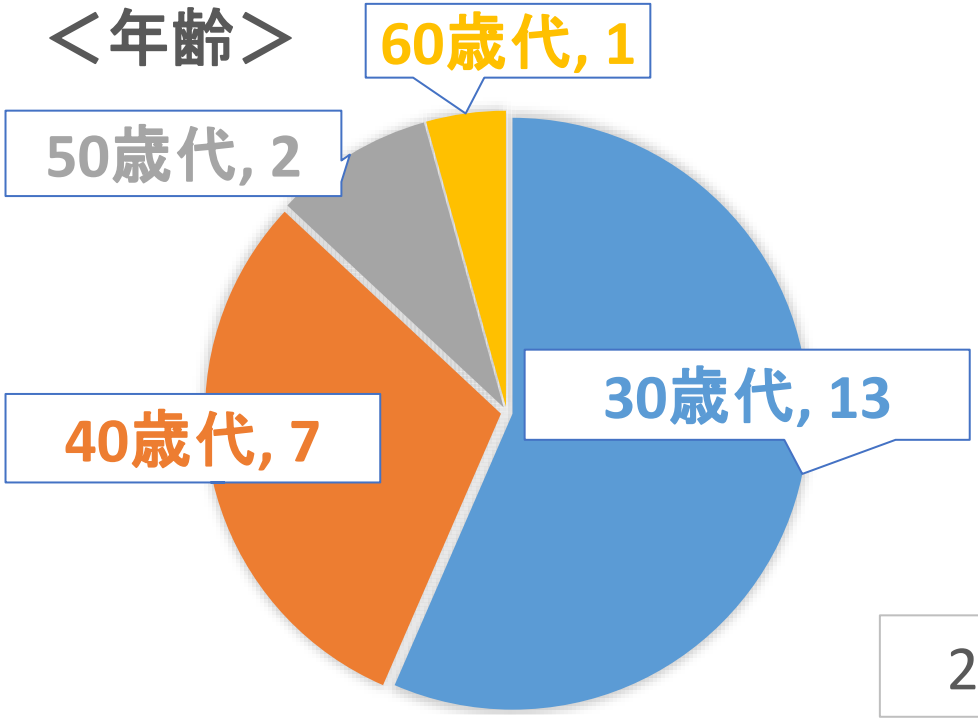
説明者氏名：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

（2）結果（回答23名）

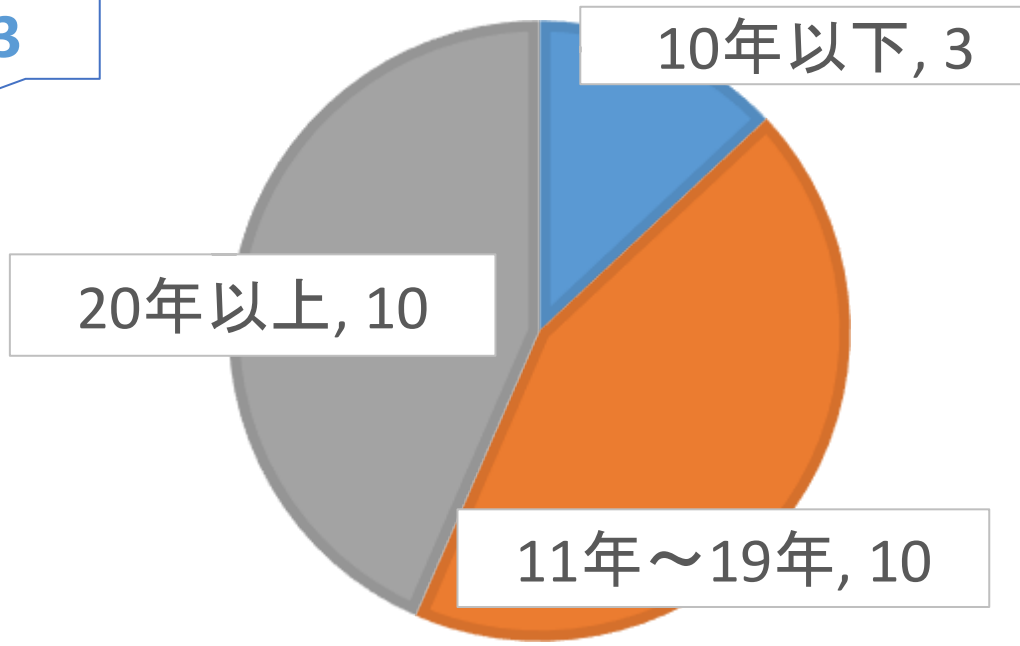
＜性別＞



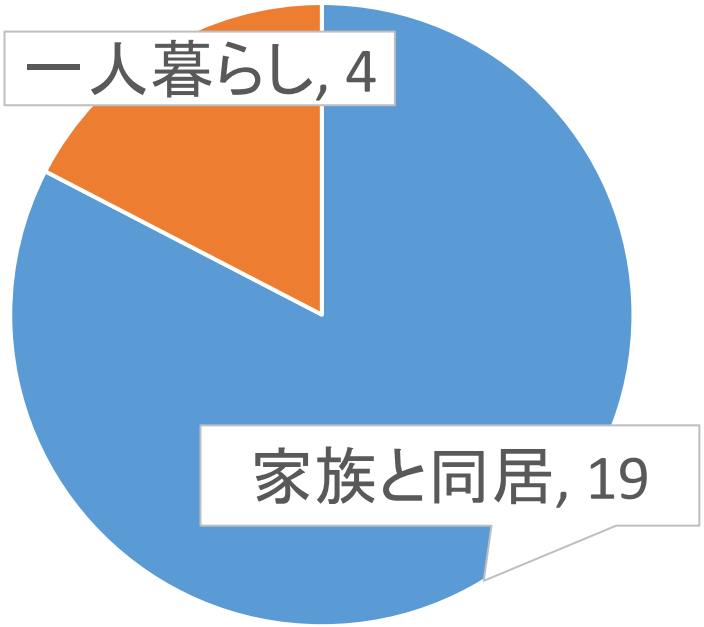
＜年齢＞



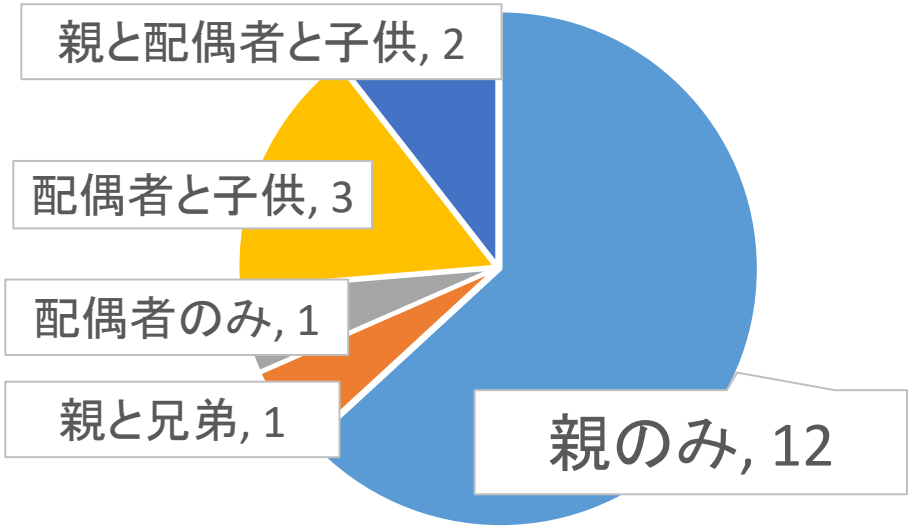
＜発症・受傷からの年数＞



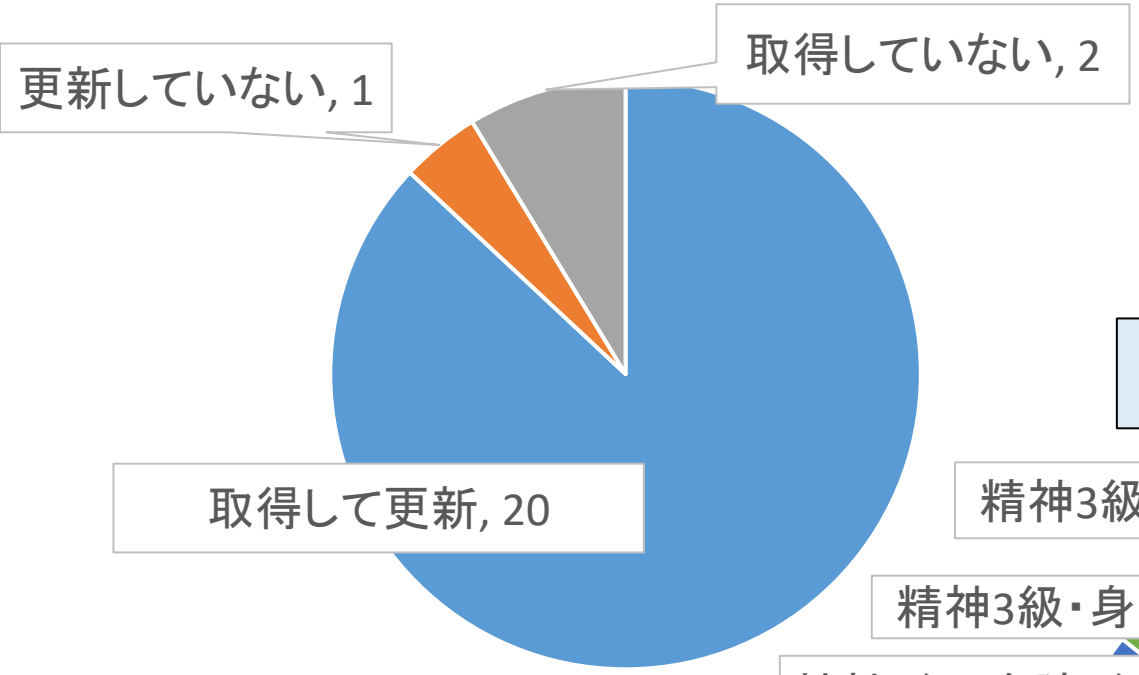
生活の状況



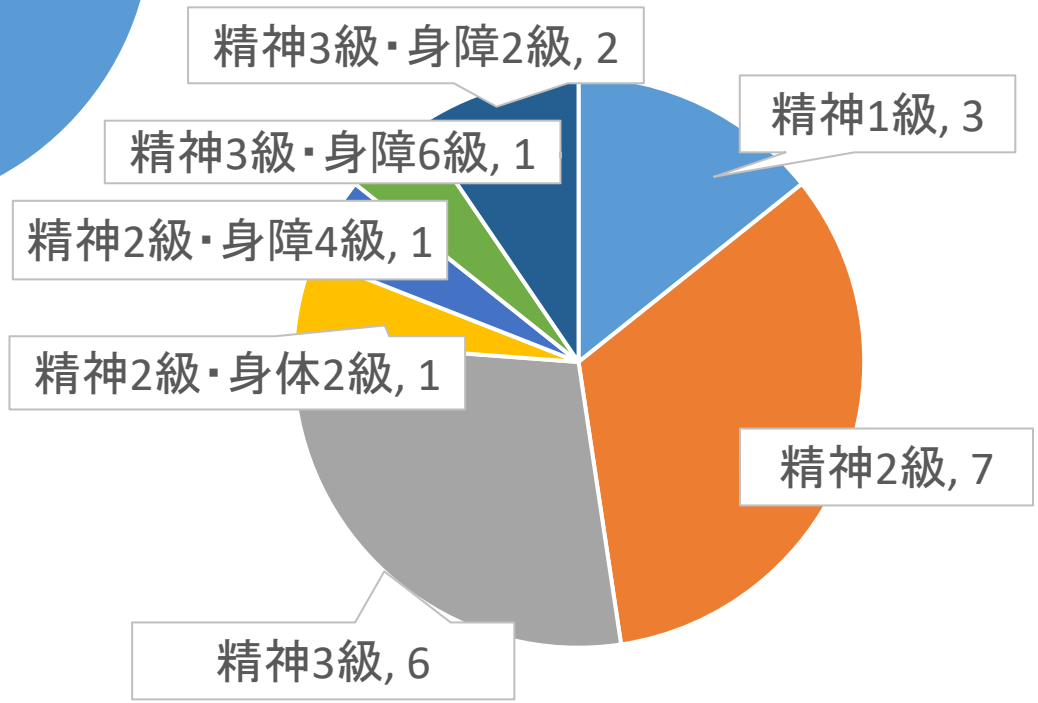
同居家族



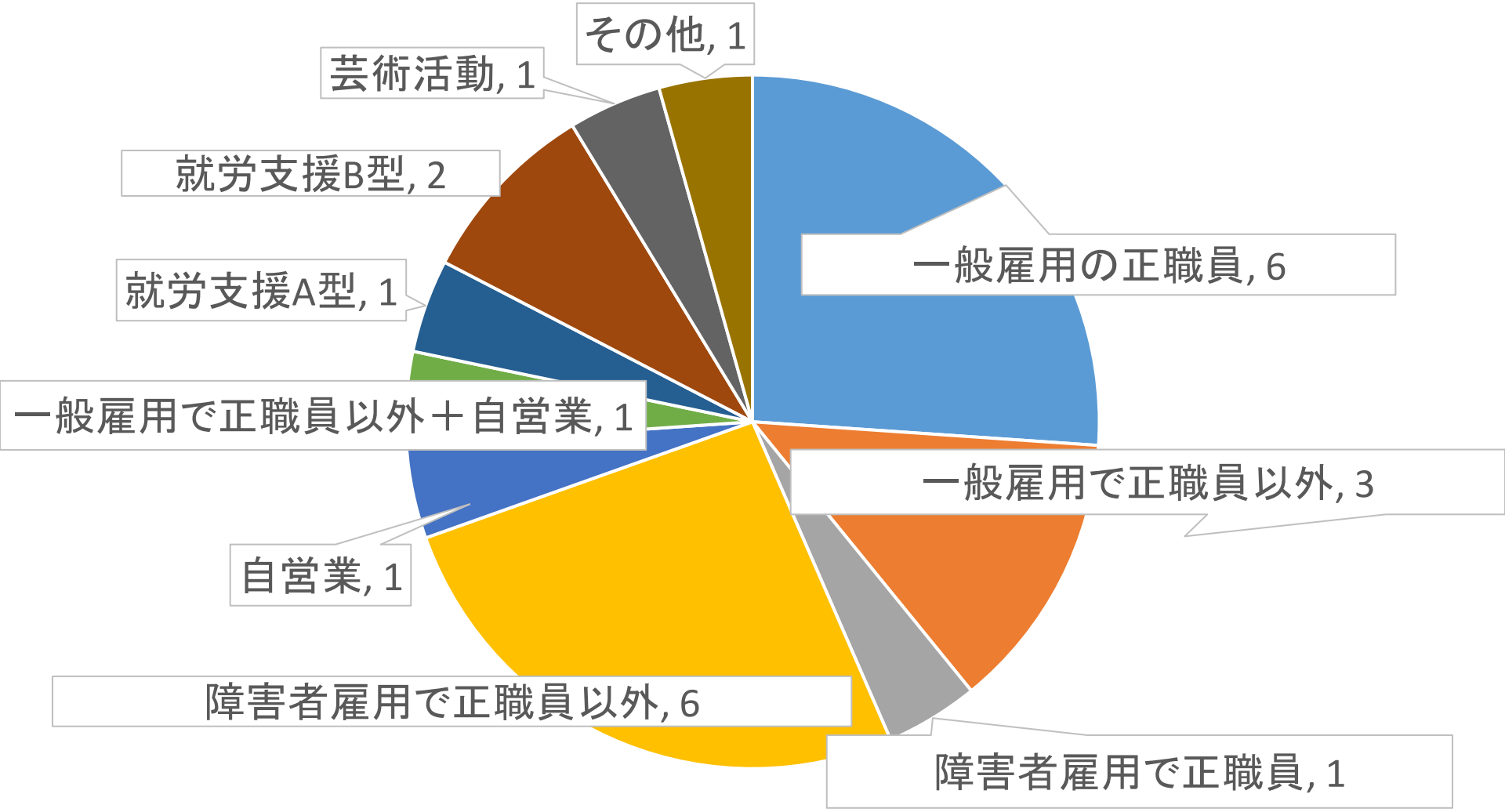
障害者手帳の取得状況



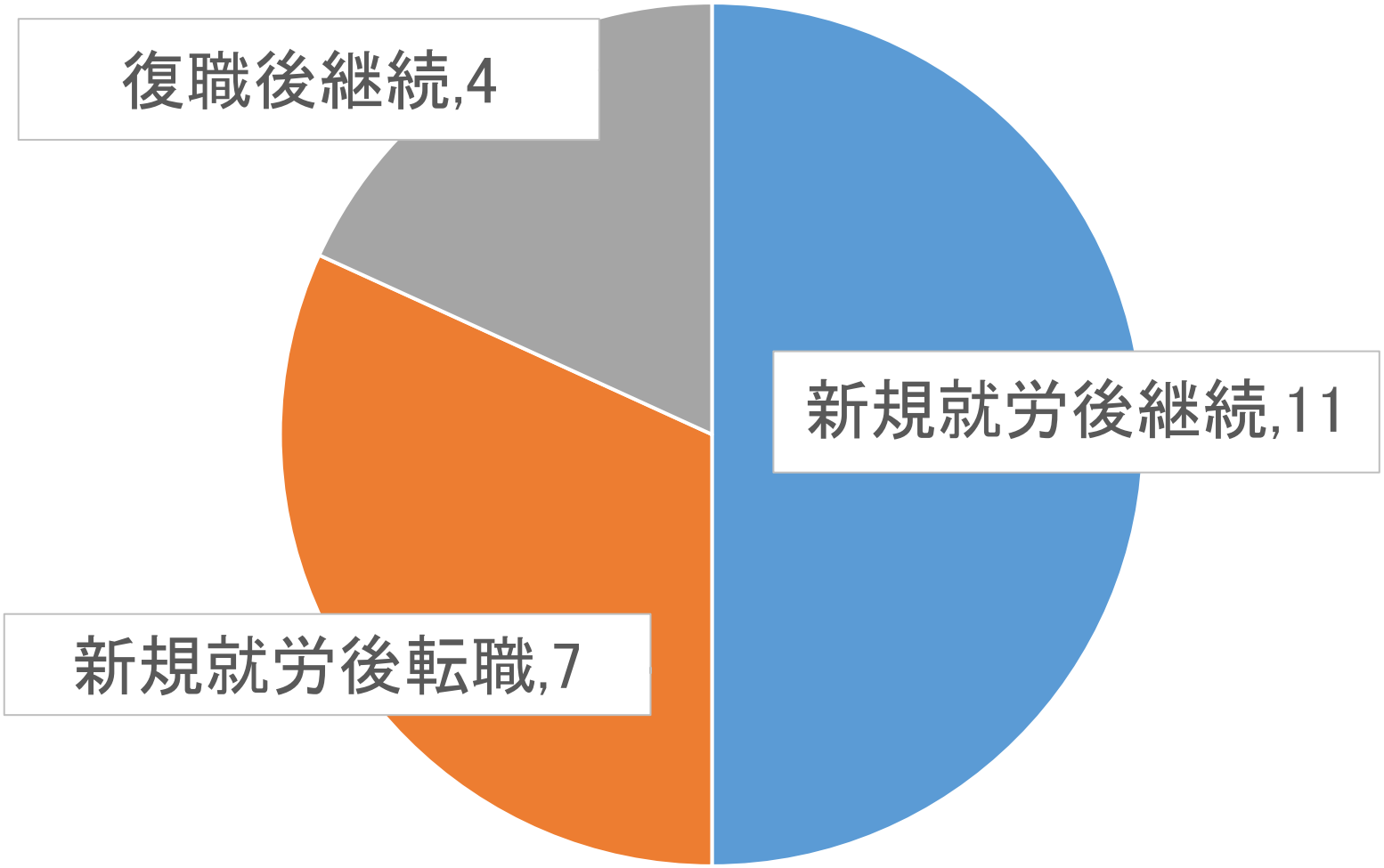
手帳の内訳



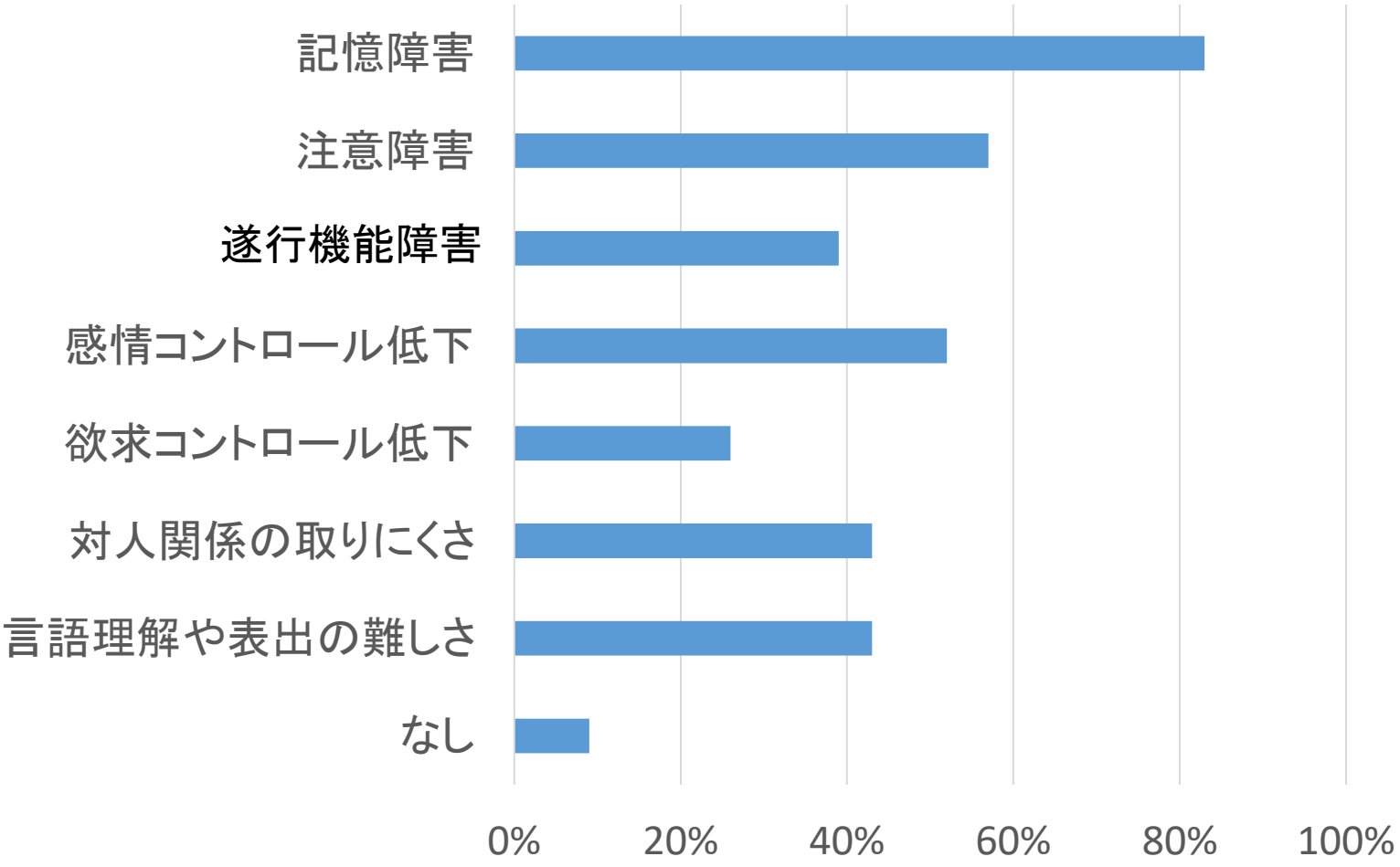
日中の過ごし方


その他, 1
芸術活動, 1
就労支援B型, 2
就労支援A型, 1
一般雇用で正職員以外＋自営業, 1
自営業, 1
障害者雇用で正職員以外, 6
障害者雇用で正職員, 1
一般雇用で正職員以外, 3
一般雇用の正職員, 6

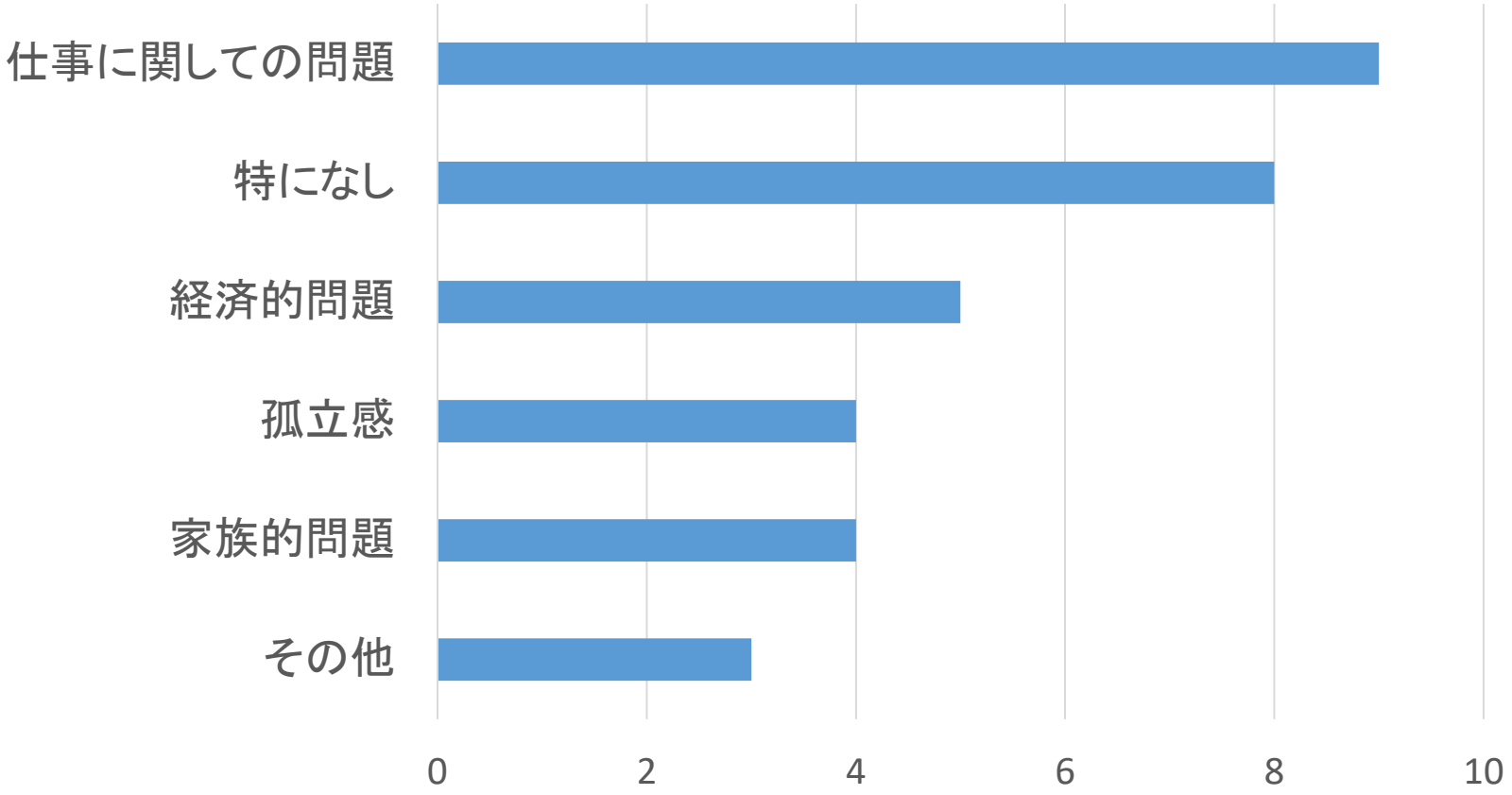
仕事の継続について



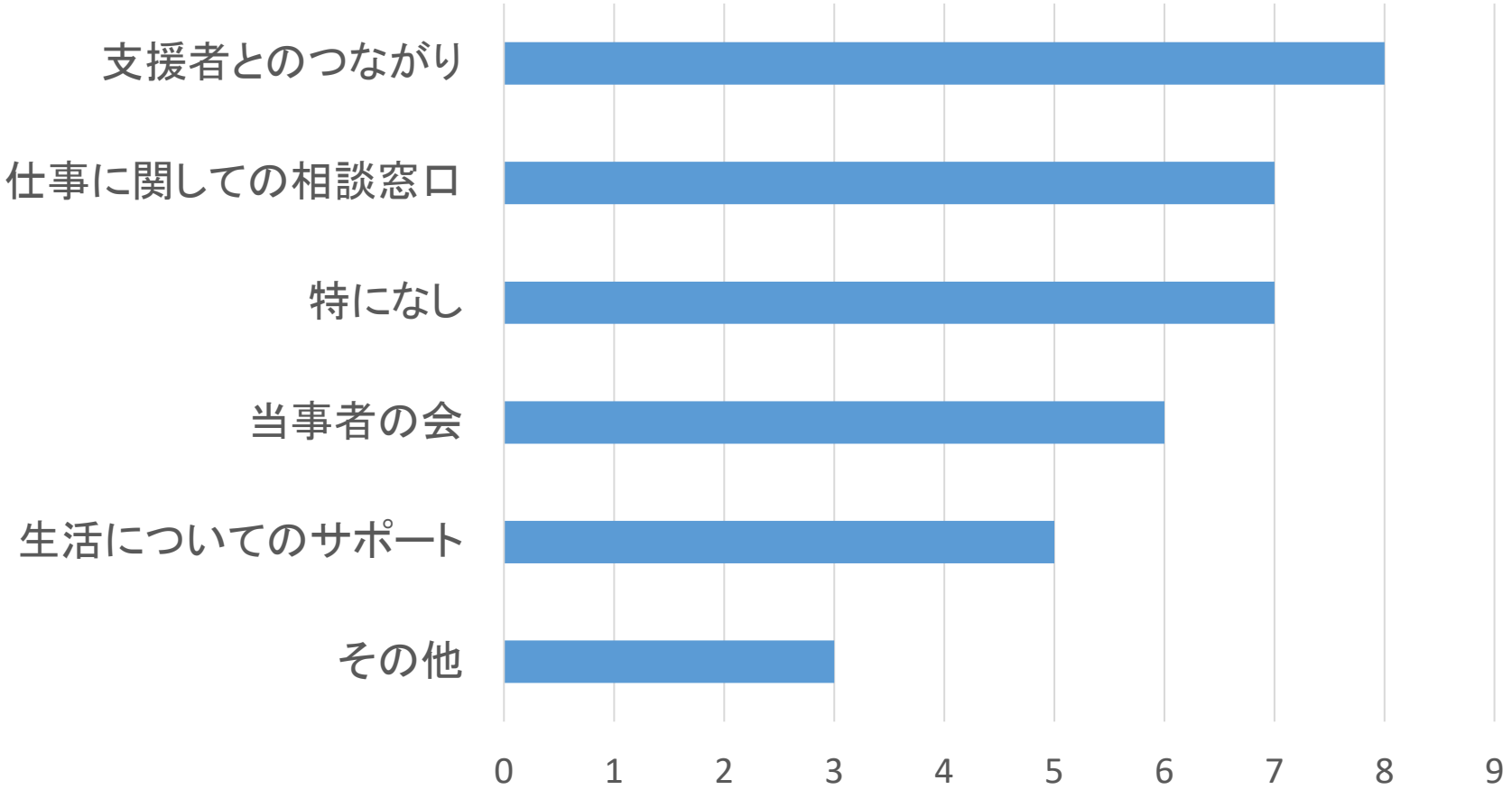
高次脳機能障害の症状


記憶障害
注意障害
遂行機能障害
感情コントロール低下
欲求コントロール低下
対人関係の取りにくさ
言語理解や表出の難しさ
なし
0%
20%
40%
60%
80%
100%

生活のしづらさ



今あったらよいと思える支援



まとめ

①年齢は30歳-40歳代が多く、受傷発症からの期間は11年以上が多かった。
②家族は親との同居が多く、配偶者がいる割合は２割6分、約4分の1であった。
③障害者手帳は取得して更新している者が多く、そのうち全員が精神の手帳を取得していた。
④日中活動は仕事がほとんどで、一般雇用が４割、障害者雇用が３割だった。
⑤高次脳の後遺症としては、記憶障害が最も多く、注意障害、感情コントロール低下が次に多かった。
⑥今の生活のしづらさは仕事の問題が、あったらよいと思える支援は支援者とのつながりが、最も多かった。

３.考察

①親との同居が多いのは経済的・精神的・家事などに親を頼りにしてる。
②大半が精神保健福祉手帳の更新を行っていて制度を必要としている。
③長期経過した現在も高次脳機能障害の症状を多く抱えていて、表現できているのは社会経験を積んだ結果と思われる。
④生活のしづらさについては、特にない群と多くの悩みを抱えている群に分かれた。
⑤支援が必要ないという群には、安定している群と支援を受けていて不自由がない群があった。

今後必要とされる支援について

長期期間を経過しても周囲にわかってもらえない、生活や仕事のしづらさについての悩みを共有できないストレスを抱えている。

↓

当事者同士で話し合えるピア・サポートが必要

↓

そこには支援者の介入が必要

↓

組織的なピア・サポーターや支援者を養成し、支援を継続できる実践の場の構築